

学校通信

けやき小

教育目標 確かな一歩



令和 8 年 6 月 30 日
西東京市立けやき小学校



e-mail e-keyaki@nishitokyo.ed.jp

ひと夏の体験を

校長 前田 元

いよいよ7月を迎えます。さて、7月17日（金）の終業式を迎えると夏休みとなります。8月31日までの長い長いお休みです。子どもたちは楽しみにしていると思います。そんな、楽しい夏休みですが、例年、生活リズムを崩してしまって、2学期のスタートで四苦八苦する子も見かけられます。夏休み期間中も子どもたちの生活リズムにご配慮いただけるとありがたいです。

夏休みという、私はいろんな体験をしたことを思い出します。中学生の時に、陸上競技場で部活動をして、へとへとになるまで走ったことなども覚えています。なぜ、こんなことをいまだに覚えているのかと、自分でも不思議に思い、考えてみました。思い当たるのは、当時の練習がしんどかったのは私だけではなく、他のみんなも同じことを感じていたようで、部活動が終わった後、いかにしんどかったかを仲間とたくさん語り合っていて帰っていたことです。もしかすると、たくさんそのことについて話すことが思い出として強く残るのかもしれない。

このように考えると、夏休み中の体験は、特別なものでなくとも、たくさん楽しく語らうことで充実したものにできるといえます。例えば、朝早起きしてみた景色の美しさ、早朝のまだ静かな時間帯に聞こえた鳥のさえずり、帰り道に見た夕日の美しさなど、考えられそうなことはたくさんあります。大きなバッタを見つけた、木の幹にクワガタムシを見つけたなども、素敵な体験になりそうです。

現代は技術の進歩がすさまじく、バーチャルでの体験もできるようになりました。それでも、実際に実物を見て感じたものは、かけがえのないものであることはこれからも変わらないと思います。ですから、子どもたちの小さな冒険や発見のお話をたくさん聞いていただけたら、子どもたちの中に素敵な宝物がたくさん詰まった夏休みにできるのではないかと思います。

私は小学校に上がる前に父が他界し、夏休み中の話し相手は、ほとんどが3歳年下の妹でした。兄ですので、もっぱら聞き役です。母は疲れて帰ってくるので、母に話すのも妹が先です。それが終わると、もう寝る時間でした。だから、中学生の時に友達とたくさん話す時間が増えたことは、私にはとてもありがたいことでした。もしかすると、先ほどの思い出が強く残っているのは、こうした私の他の経験も影響しているのかもしれない。それでも楽しい思い出なのです。

子どもたちは日常の中でも、何かを発見して、わくわくしています。保護者の皆様も、お忙しい中だとは思いますが、子どもたちの話を聞いて、一緒にわくわくしていただけたら幸いです。

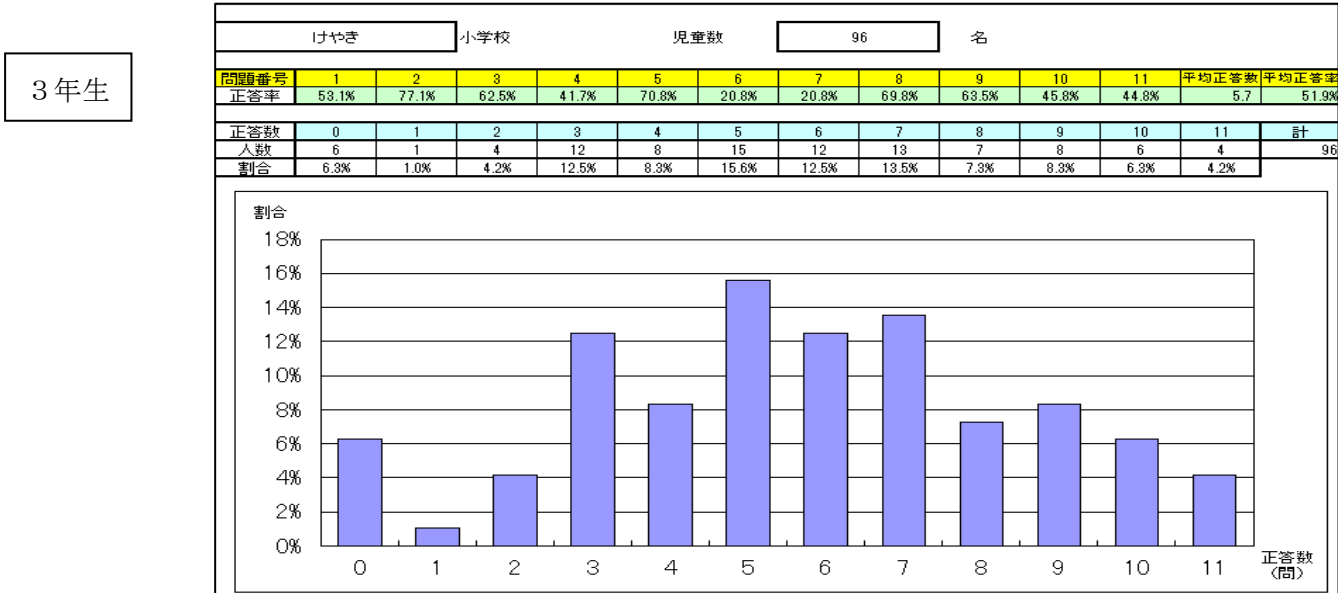
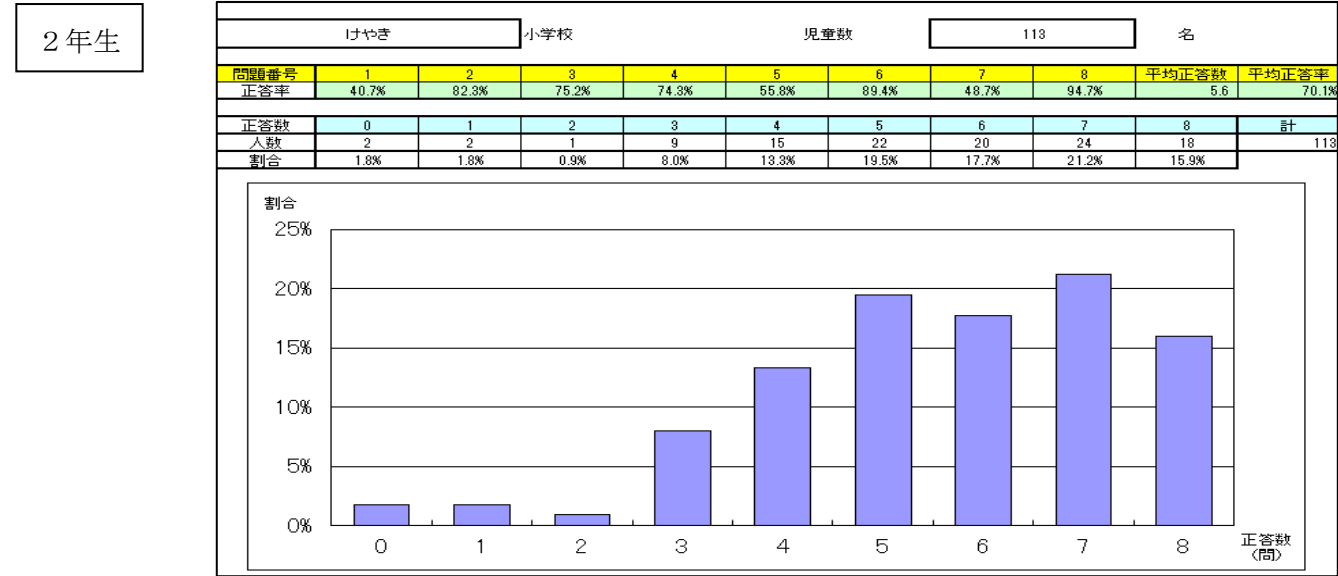
例年、夏休みの期間中に水の事故や山中での事故の報道を聞きます。けやき小学校の子どもたちのせっかくの楽しい夏休みが、こうした出来事に巻き込まれないように願ってやみません。2学期の始業式に全員がたくさんの体験と一緒に元気に登校してくれることを楽しみにしています。

ここまで書いた以上、私自身、夜更かしをしたり、だらだら過ごしたりすることのないように、自分の生活リズムを保って夏休みを過ごしていきます。

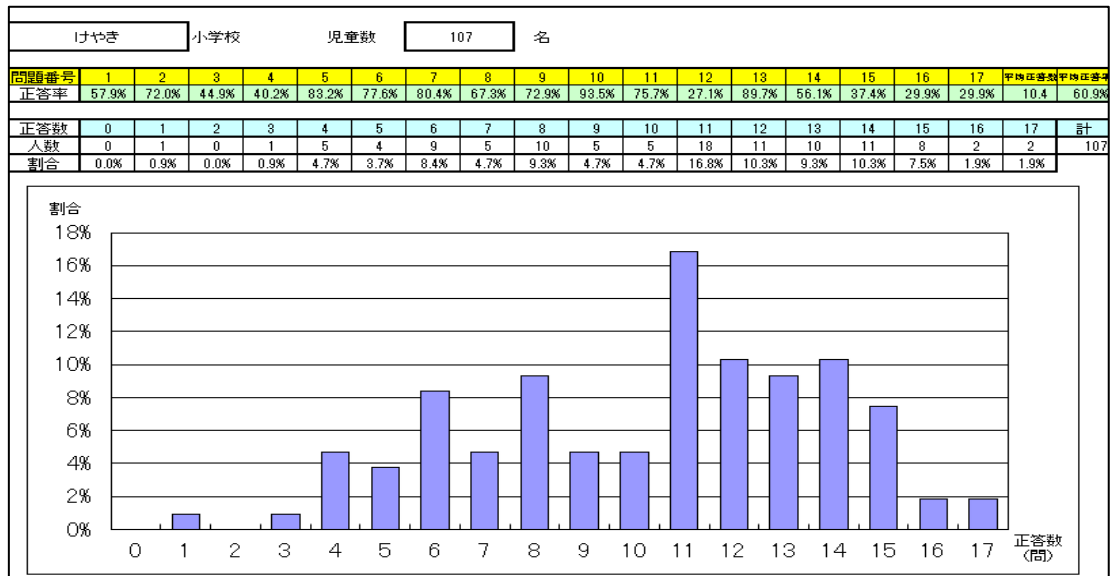
第1回けやきテストの結果について <5月11日～15日実施>

本校では毎年、2年生から6年生までを対象に、前年度の算数の学習内容が定着しているかを確認する「けやきテスト」を行っています。このテストは、東京都教育委員会作成の「東京ベーシック・ドリル」を活用したものです。このテストの結果を基に、前年度の内容で身に付いていること・理解が十分でないこと等を把握させ、不十分な部分は繰り返し指導したり復習を促したりしています。第1回分は5月に実施し、答案は既に返却済みです。今回正答率が高かったのは2年「かたち」、3年「分数」、4年「分数のたし算」、5年「少数の表し方」、6年「分数のたし算」などの問題、逆に正答率が低かったのは、2年「大きい数」、3年「式による表し方」「量の単位」、4年「式による表現」、5年「立方体、直方体、ものの位置」、6年「単位量当たりの大きさ」などの問題でした。

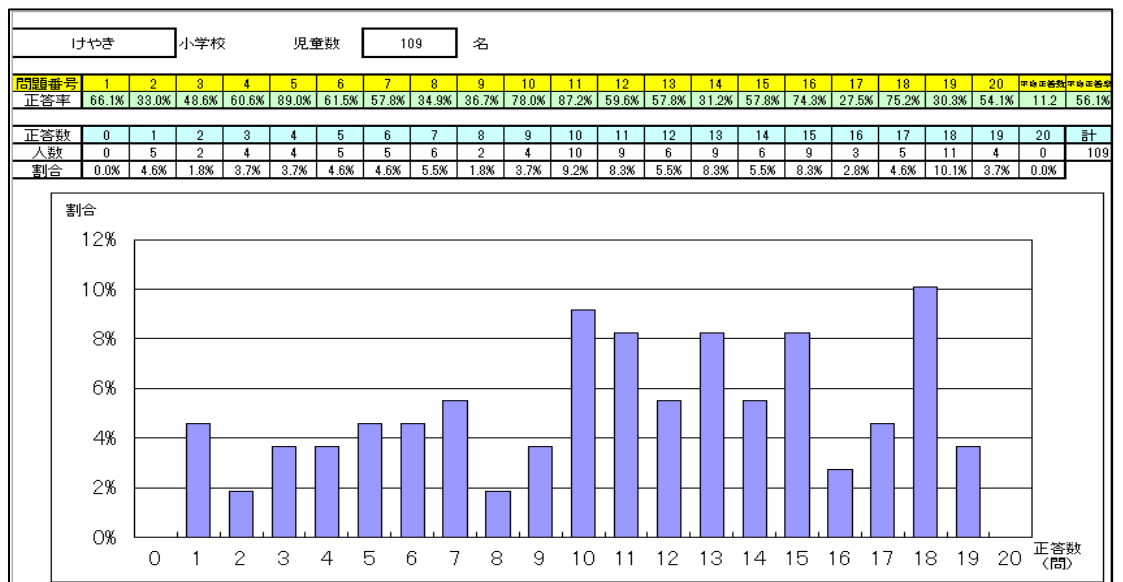
特に、各学年における正確な計算（たし算・ひき算・かけ算・わり算）の力は次の学習の礎になるもので大変重要です。課題が見られた問題に対しては、学校で繰り返し復習させていきますが、家庭学習の中で保護者の皆様にも見守り、励ましのお声掛けをいただけると幸いです。ご協力をお願いいたします。



4 年生



5 年生



6 年生

